

# 新しい「ひとはく」の実現に向けた取り組み

ひとはくは今から15年前の平成4年10月に開館しました。開館以来、多少の展示の入れ替えは行ったものの、建物や展示の大部分は変わっておらず、老朽化が進んでいます。開館10周年を過ぎた平成15年度から、博物館のリニューアルを目指して、若手研究員が中心となってワークショップや有識者を呼んでの勉強会等を重ね、未来のひとはくはどうあるべきかを議論してきました。その中で、ひとはくの使命を「地域を愛する心をはぐくみ、地域の自然・環境・文化を未来へ継承すること」と定義し、自然・環境に関する生涯学習の場を様々なプログラム等で提供して、ひとはくと使命を共有できる人たちを増やしていくことが、我々に課せられた将来に向けての課題であることを再確認しました。平成17、18年度は、

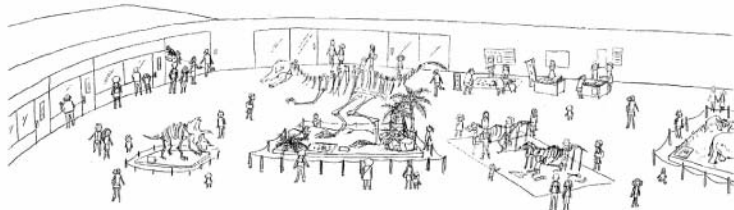


図1 新しい展示空間のイメージ

恐竜の展示を手本にしなが、来館者がその恐竜のレプリカを組み立てるプログラムに参加しているところ。

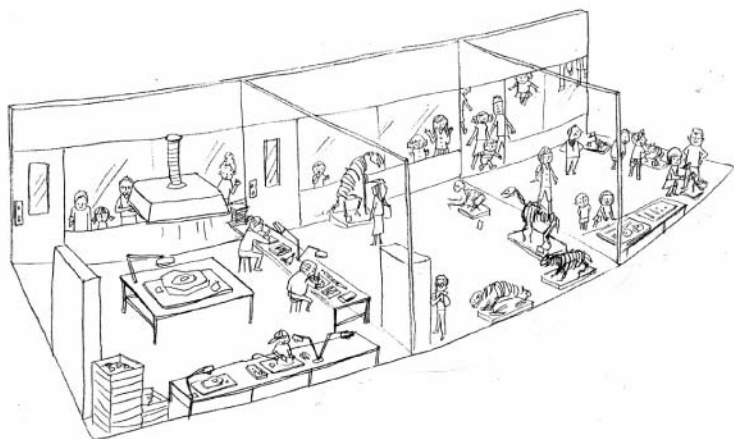


図2 県民ラボのイメージ

標本を手にとって調べものをするレファレンスコーナーから、ごく簡単な作業を行う実習室、専門的な道具等を扱う作業ができる実験室まで、作業の段階に応じた部屋が並んでいる。実習室・実験室で作業を行っているのは、博物館の研究員ではなく、大学院生や地域研究員、セミナー受講者。来館者はレファレンスコーナーで標本を見ることができ、他、実習室・実験室の様子を外から眺めることができる。希望者はセミナー等でトレーニングを受けることにより、実験室で自ら作業することもできる。

三浦朱門(作家、日本芸術院長)氏を委員長に迎えて、基本構想策定委員会を立ち上げ(=これは公にひとはくがリニューアルについて考えなさいと言われたということです)、新たなひとはくのあり方について議論を頂きました。昨年11月には基本構想案のパブリックコメントを実施し、1月30日に最終の基本構想策定委員会を経て、この度ようやく新しいひとはくの基本構想がまとまりました。

基本構想そのものは50ページを越える大部ですが、ごく簡単に説明すると、私達が「新しいひとはく」で目指すのは、来館者の方が展示を見るだけではなく、自分で展示物を作ったり、研究員になりきってみたり、資料を使って調べ物をする等、様々な体験活動を行うことによって、自らの自然・環境に対する関心や理解を自発的に深めることが出来る博物館です(図1,2)。昨年丹波市山南町で発見され、今も発掘が続く恐竜化石をどのように皆さんにお見せしていくのかという話もありますし、詳しい内容はこれからもっと詰めていく必要がありますが、「1度来たらおしまい」の博物館ではなく、「何度来ても楽しめる」博物館にして行きたいと考えています。順調に進めば、今から4、5年後にリニューアルの予定です。乞うご期待!

(企画調整室 ネクスト担当グループ 高野温子)

人と自然の博物館ニュース  
「ハーモニー」No. 56

平成19年3月20日

兵庫県立人と自然の博物館  
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目  
TEL (079) 559-2001 (代表)  
FAX (079) 559-2007

## 編集後記:

今号は企画展「共生の風景」の特集としました。「人と自然の共生」をキーワードに、古写真を通じて今では見られなくなった人と生き物の暮らしを感じていただければと思います。また、平成19年4月に丹波市青垣に開設される「森林動物研究センター」についてもご紹介しました。

開館15周年を迎え、博物館はリニューアルに向けて日々頑張っています。新しい「ひとはく」を実現するための取り組みもご紹介しました。

(生涯学習推進室 中江 環)

ハーモニーのバックナンバーは博物館のホームページ  
[http://hitohaku.jp/publications\\_index.html](http://hitohaku.jp/publications_index.html)  
でご覧いただけます。

博物館ではインターネット上でも情報を提供しています。  
URL <http://hitohaku.jp/>